

## 安全データシート

### 1 化学品及び会社情報

製品の名称	: 簡易水質検査キット シンプルパック COD 中濃度 48 入
製品コード	: 080520-328
会社名	: 柴田科学株式会社
住所	: 埼玉県草加市中根 1-1-62
担当部門	: 品質保証部
電話番号	: 048-931-7276
FAX 番号	: 048-931-0563
推奨用途及び使用上の制限	: 検水中の化学的酸素要求量<COD>の簡易測定

### 2 危険有害性の要約

#### GHS 分類

健康有害性	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 2
	生殖毒性	区分 2
	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分 1 (血液)
	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分 1 (血液)

上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しないか分類できない。

#### GHS ラベル要素

##### 絵表示



##### 注意喚起語

危険

##### 危険有害性情報

強い眼刺激  
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い  
血液の障害  
長期にわたる、または反復ばく露による血液の障害

##### 注意書き

###### [安全対策]

保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。  
取扱い後はよく手を洗うこと。  
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

###### [応急処置]

吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。医師に連絡すること。  
皮膚に付着した場合、多量の水と洗剤で洗うこと。  
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと、次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
飲み込んだ場合、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。医師に連絡すること。  
気分が悪い時は、医師の診断、手当を受けること。

**[保管]**

容器を密栓して換気の良い場所で保管すること。  
 酸、酸化剤と離して保管すること。  
 施錠して保管すること。

**[廃棄]**

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

### 3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS 番号
			化審法	安衛法	
増量剤 (硝酸カリウム)	<99%	KN03	(1)-449	既存化学物質	7757-79-1
pH 調整剤 (水酸化カルシウム)	<1.0%	Ca(OH)2	(1)-181	既存化学物質	1305-62-0
過マンガン酸カリウム	<0.2%	KMnO4	(1)-446	既存化学物質	7722-64-7

製品全体の構成

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	CAS 番号
<b>【容器部分】</b>		
パック (低密度ポリエチレン)	<95%	非公開
<b>【試薬部分】</b>		
増量剤 (硝酸カリウム)	<5%	7757-79-1
pH 調整剤 (水酸化カルシウム)	<0.1%	1305-62-0
過マンガン酸カリウム	<0.02%	7722-64-7

### 4 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
皮膚に付着した場合	多量の水と石鹼で洗うこと。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 直ちに医師に連絡すること。
飲み込んだ場合	医師に連絡すること。 口をすすぐこと。飲み込んだ場合、無理に吐かせないこと。 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
応急措置をする者の保護に必要な注意事項	救助者は、状況に応じて適切な保護具を着用する。

### 5 火災時の措置

適切な消火剤	この製品自体は、燃焼しない。
使ってはならない消火剤	特になし。
火災時の特有の危険有害性	特になし。
特有の消火方法	速やかに容器を安全な場所に移す。移動不可能な場合は、容器及び周囲に散水して冷却する。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	自給式呼吸器 (SCBA) を着用する。 防火服は火災時に限られた防護をするに過ぎない。

### 6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離し、関係者以外の立ち入りを禁止する。
-----------------------	---

	<p>風上に留まる。 低地から離れる。 立ち入る前に、密閉された場所を換気する。 作業者は適切な保護具（「8 ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。</p>
環境に対する注意事項	<p>河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。 環境中に放出してはならない。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。</p>
封じ込め及び浄化の方法及び機材	<p>危険でなければ漏れを止める。 漏洩物を掻き集めてから容器に回収し、後で廃棄処理する。</p>

## 7 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

技術的対策	「8 ばく露防止及び保護措置」に示す設備対策を行い、保護具を着用する。
安全取扱注意事項	<p>接触、吸入又は飲み込まないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 眼に入れないこと。 環境への放出を避けること。</p>
接触回避	防護対策が不十分な場所での「10 安定性及び反応性」に示す混触危険物質との接触を避ける。
衛生対策	汚染された保護衣は洗濯後使用する。取扱い後はよく手を洗うこと。

### 保管

安全な保管条件	<p>屋内で保管する。安全に取り扱うために必要な採光、照明及び必要に応じ換気装置を設置する。 酸、酸化剤と離して保管すること。 容器は密閉して保管すること。 施錠して保管すること。</p>
安全な容器包装材料	国連輸送法規で規定されている容器を使用する。最初の容器内でのみ保管すること。
混触危険物質	強酸化剤、酸。「10 安定性及び反応性」を参照。

## 8 ばく露防止及び保護措置

化学名又は一般名	管理濃度	許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）	
		日本産衛学会	ACGIH
増量剤（硝酸カリウム）	未設定	未設定	未設定
pH 調整剤（水酸化カルシウム）	未設定	未設定	5 mg/m3
過マンガン酸カリウム	0.2 mg/3 (マンガンとして)	0.1 mg/m3 (総粉じん) 0.02 mg/m3 (吸入性粉じん)	0.02 mg/m3 (吸引性粒子) 0.1 mg/m3 (インハラブル粒子)

設備対策	本製品を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
保護具	
呼吸用保護具	必要に応じて呼吸用保護具を使用する。
手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
眼の保護具	眼の保護具を着用すること。安全眼鏡を着用すること。はね飛び又は噴霧によって眼及び顔面接触が起こりうる時は、包括的な化学スプラッシュゴーグル、及び顔面シールドを着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣、顔面用の保護具を着用すること。不浸透性の保護衣（長袖）を着用すること。

## 9 物理的及び化学的性質

物理状態	固体、結晶状粉末。約 0.1g 個包装。 ポリエチレンパックに封入。
色	白色
臭い	無臭
融点／凝固点	データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	データなし
可燃性	データなし
爆発下限界及び爆発上限界 ／可燃限界	データなし
引火点	データなし
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	11～12
動粘性率	データなし
溶解度	水に可溶
n-オクタノール／水分配係数 (log 値)	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び／又は相対密度	データなし
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

## 10 安定性及び反応性

反応性	粉末状の可燃物と混合したものは、加熱、衝撃により激しい燃焼又は爆発を起こすことがある。 酸と接触すると反応する。
化学的安定性	通常の保管および取り扱い条件において安定である。
危険有害反応可能性	アルカリ性であり、酸との反応では発熱する。
避けるべき条件	日光、熱、湿気、二酸化炭素。
混触危険物質	強酸化剤、酸。
危険有害な分解生成物	窒素酸化物、酸化カルシウム。

## 11 有害性情報

急性毒性 (経口)	成分の急性毒性値は、硝酸カリウム 3750 mg/kg、水酸化カルシウム 7340 mg/kg、過マンガン酸カリウム 379 mg/kg であり、混合物の急性毒性値が 3792 mg/kg のため、GHS：区分外に該当する。
(経皮)	データ不足のため分類できない。
(吸入：粉塵、ミスト)	データ不足のため分類できない。
(吸入：蒸気)	データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性／刺激性	データ不足のため分類できない。
眼に対する重篤な損傷性 ／眼刺激性	水酸化カルシウム、過マンガン酸カリウムが区分 1、濃度限界 (10.0%) 以上のため、区分 2「強い眼刺激」に該当。
呼吸器感作性又は 皮膚感作性	データ不足のため分類できない。

生殖細胞変異原性	データ不足のため分類できない。
発がん性	データ不足のため分類できない。
生殖毒性	硝酸カリウム、過マンガン酸カリウムが区分 2 で濃度限界（3%）以上のため、GHS：区分 2「生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い」に該当する。
特定標的臓器毒性 （単回ばく露：血液）	成分濃度が濃度限界（10.0%）以上の区分 1 の成分は硝酸カリウム（血液）であるため、GHS：区分 1「血液の障害」に該当する。
特定標的臓器毒性 （反復ばく露：血液）	成分濃度が濃度限界（10.0%）以上の区分 1 の成分は硝酸カリウム（血液）であるため、GHS：区分 1「長期にわたる又は反復ばく露による血液の障害」に該当する。
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。

## 12 環境影響情報

生態毒性	
水生環境有害性 短期（急性）	データ不足のため分類できない。
水生環境有害性 長期（慢性）	データ不足のため分類できない。
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データ不足のため分類できない。

## 13 廃棄上の注意

残余廃棄物 ／汚染容器及び包装	廃棄においては関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 焼却炉で少量ずつ焼却処理するか、都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。
--------------------	--

## 14 輸送上の注意

### 国際規則

陸上輸送（ADR/RID）	
国連番号	1486
品名	POTASSIUM NITRATE
国連分類	5. 1
容器等級	III
海洋汚染物質	非該当
海上輸送（IMDG）	
国連番号	1486
品名	POTASSIUM NITRATE
国連分類	5. 1
容器等級	III
海洋汚染物質	非該当
航空輸送（IATA）	
国連番号	1486
品名	POTASSIUM NITRATE
国連分類	5. 1
容器等級	III

## 国内規制

陸上規制情報	施行令第 19 条の 13 (通行制限物質)
海上規制情報	危険速第 3 条危険物告示別表第 1 酸化性物質類
航空規制情報	施行規則第 194 条危険物告示別表第 1 酸化性物質類
特別の安全対策	輸送の前に容器の破損、腐食、漏れ等のないことを確かめる。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れを生じないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。 重量物を上積みしない。
緊急時応急措置指針番号	140

## 15 適用法令

化学物質排出把握管理促進法 (PRTR 法)	非該当
労働安全衛生法	施行令別表第 1 危険物 (酸化性の物) 名称等を通知すべき危険物及び有害物 (法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 第 1 号、第 2 号別表第 9) (過マンガン酸カリウム) (R7.4 から該当) 名称等を通知すべき危険物及び有害物 (法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 第 1 号、第 2 号別表第 9) (硝酸カリウム) 名称等を表示すべき危険物及び有害物 (法第 57 条第 1 項、施行令第 18 条第 1 号、第 2 号別表第 9) (硝酸カリウム)
毒物及び劇物取締法	非該当
化審法	非該当
廃棄物処理法	特別管理産業廃棄物 (法第 2 条第 5 項、施行令第 2 条の 4 第 3 号) (廃アルカリ) (Ph 12.5 以上のもの)
消防法	危険物第 1 類酸化性固体硝酸塩類第 3 種酸化性固体
航空法	施行規則第 194 条危険物告示別表第 1 酸化性物質類
海洋汚染防止法	有害液体物質 (Z 類物質) (施行令別表第 1) (水酸化カルシウム)

## 16 その他の情報

参考文献	NITE GHS 分類公表データ 経済産業省 GHS 混合物分類判定システム EU CLP Regulation, Annex VI RTECS 硝酸カリウム 関東化学 安全データシート 32365 水酸化カルシウム 関東化学 安全データシート 07069
------	---

記載内容は、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、現時点における化学又は技術に関する全ての情報が検討されているわけではありませんので、いかなる保証をなすものではありません。又、注意事項は、通常取り扱いを対象としたものであります。特殊な取り扱いの場合には、この点のご配慮をお願いします。